平成２７年度宮城県学力学習状況調査　全体傾向について

東松島市教育委員会

１　**実施日**　　平成２７年　４月１４日（火）

２　**実施校及び受検児童生徒数**

市内小学校９校 第５学年３６０人，中学校３校 第２学年４１０人

３　**全体表〈観点別〉**　　数値は正答率　　「全国」は期待値

対象		国語				算数・数学			英語		
小学5年生		正答率				正答率					
	本市	58.6				68.5					
	県	62.0				71.3					
	全国	66.7				70.5					
	観点	①	②	③	④	①	②	③			
	本市	69.6	41.2	52.3	66.7	57.7	71.9	68.4			
	県	70.5	49.0	55.9	67.8	61.7	74.7	70.8			
	全国	71.6	62.2	59.3	68.8	59.8	76.0	69.0			
中学2年生		正答率				正答率			正答率		
	本市	60.6				61.6			64.9		
	県	62.9				61.8			65.6		
	全国	64.9				63.0			68.3		
	観点	①	②	③	④	①	②	③	①	②	③
	本市	74.7	60.9	55.0	57.5	54.9	60.6	65.4	51.2	71.4	63.3
	県	76.0	66.6	55.1	60.5	55.2	61.4	65.0	51.8	71.0	65.8
	全国	80.1	58.2	59.5	63.9	54.8	64.2	65.1	53.2	72.8	69.8

〈観点について〉

【国語】①話す・聞く能力　　②書く能力　　③読む能力
　　④言語についての知識・理解・技能

【算数】①数学的な考え方　　②数量や図形についての技能
　　③数量や図形についての知識・理解

【数学】①数学的な見方考え方　　②数学的な技能　　③数量や図形についての知識・理解

【英語】①外国語表現の能力　　②外国語理解の能力　　③ 言語や文化についての知識・理解

４　**全体傾向について**

（１）**小学校**

①国　語

・「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」は，期待値と同程度である。

・「書く能力」「読む能力」は，期待値を下回り，県平均正答率と比較しても低い。特に「書く能力」は２０ポイント以上下回り，正答率が４割程度である。

②算　数

・全観点で県平均正答率を下回っている。中でも「数学的な考え方」は４ポイント下回っている。

・期待値と比較すると「数量や図形についての技能」が４．１ポイント下回っている。

（２）中学校

①国　語

・「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」が県平均正答率・期待値を下回っている。

・「書く能力」は概ね良好であるが，全体の２割弱の生徒が無回答である。また，指定された字数や段落で書くことなど，作文の条件を満たしていない。

②数　学

・「数学的な見方や考え方」「数量や図形についての知識・理解」については，県平均正答率，期待値と比較しても有意差はない。

・「数学的な技能」が期待値より３．６ポイント低い。

③英　語

・「外国語表現の能力」「外国語理解の能力」については，県平均正答率，期待値と比較しても大きな開きは見られない。

・「言語や文化についての知識・理解」は，期待値と比較すると６．５ポイント下回っている。

５　今後の課題

（１）小学校

①国　語

○「書く能力」を養うために，各学年の指導事項に応じて書く機会を設定し，慣れさせていく必要がある。授業の中だけでは十分に時間を取れないので，日記指導や課題作文などで行っていくことも考えられる。

○国語では，類型外誤答が多かったことから，題意を読み取れていない児童が多いと考えられる。「読む能力」が低かったことからも，文章の内容を正しく読み取る力の不足，文章を読みこなすのに時間が掛かる，難しい文章に直面すると読解をあきらめてしまう児童の姿が予想される。的確に読ませるために，授業では，以下の工夫を試みたい。

・言葉に着目させる指導の工夫　→　サイドライン，書き込み，抜き書きなど

・理解を促す資料の工夫　→　挿絵，教材文の拡大コピー，文図，文章構成図など

・自分の考えを整理させる指導の工夫　→　ノートやワークシートなど

②算　数

○基礎・基本の定着を図ることと，本市児童の課題点である図形領域及び数量関係の底上げを図る必要がある。その手立てとして，以下のような工夫を取り入れていく。

・図形領域の指導については，算数的活動の時間を十分に確保し，辺と辺の長さの関係や交わった角の大きさなど気付いたことを，ペアやグループで話し合ったり，ノートにまとめたりする学習を続けていく必要がある。

・伴って変わる２量の関係では，児童の興味・関心を高めるために，身近な事象や解く必要性のある問題を取り入れるなどの工夫が必要である。

・技能面の定着を図るためには，児童の実態を的確に把握し，スキルタイムや家庭学習などを使って繰り返し取り組ませることが必要である。

・東松島市学力向上推進委員会より示されている，家庭学習のポイントを周知させる。

・学習を始める際に児童のレディネスを把握し，定着が不十分な部分について対応を図る。

（２）中学校

①国　語

○普段から漢字を使い，分からないことは辞書で確認する習慣を身に付ける。日々の授業の中で，漢字だけを取り上げることは難しいので，課題を与えて家庭学習等で取り組めるようにする。

○授業では教科書以外の作品にも触れる機会を増やすなど，古文の音読を充実させ，歴史的仮名遣いのリズムに親しめるようにする。

○話合いでは，自分の意見を発表することに満足して終わるのではなく，相手の意見に耳を傾ける姿勢を意識させる。必要に応じてメモを取ったり，疑問点を相手に質問するなど，話合いが一方的にならないように，意見の交流の場を設けることが必要である。

○さまざま短作文の課題に取り組み，作文の基本的な書き方を定着させる。

②数　学

○図形に関する知識や計量の技能は他の領域との関連が薄いことが定着の低さに結び付いていると考えられる。意図的に復習させる場面を設けていく。

○数学的な思考力，判断力を養う上で授業に言語活動を取り入れることが必要である。

○自校の調査結果を分析し，正答率の低い問題を取り上げて指導する場面を設けることは各校で行うべき最低限の取組である。

③英　語

○基礎・基本の定着に向けて授業と家庭学習のサイクルの習慣化を図る。

・予習で教科書の本文を写し，語句の意味を調べるなど，事前の準備をさせる。

・授業：ねらいに応じた活動を工夫する。楽しみながら意欲的に学習できる環境作り。
導入→基本表現や基本単語の反復学習の場を設ける。
展開→授業のねらいを明確にする。また，音読練習に力を入れることで，教科書本文の内容理解を深めさせる。
終結→ねらいが達成できたか，振り返り（自己評価カードの活用）をさせる。

・復習：学習した内容を整理させる。基本文や語句の練習や音読練習などの声掛け。
課題を出すなどして，理解を確かめたり，深めたりすることも必要である。

（３）全体として

①日々の授業における学習規律を徹底させ，基礎・基本の定着を図る。

②家庭学習の仕方など，学習の意義，必要性，規則正しい生活の重要性などについての具体的な指導をさまざまな機会を通して取り入れていく。

③小中の連携強化により情報交換を密にすることで，個の苦手な分野を把握し，指導の強化に努める。

６　その他

（１）小学校質問紙から

①平日の読書時間が全くないという児童が約３割，３０分未満の児童が４割以上に上っているが,実は休日もこの状況はほとんど変わっていない。読むことに慣れ親しませるために，家庭学習での音読のさせ方を工夫したり，読書環境を整えたりするなど，読書活動の充実に努めていくことが求められる。

（２）中学校質問紙から

①「友達と話し合うとき，友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と答えた生徒は９割いる。しかし，受動的に聞いているだけで，自分の考えを深めたり広げたりすることができている生徒は５割程度にとどまっている。今後は，友達との意見の共通点や相違点，比較，自分の表現に生かしたりするなどの能動的に聞く態度を養わせたい。

②１日当たりの読書の時間は「全く読まない」生徒が平日で４割，休日で約５割と答えている。今後，読む能力や言語についての知識・理解・技能を高めるためにも，朝や昼に読書の時間を設定したり，題材と関連のある作者や内容の読書推進を行っていく。